

町長が考える政治とは何か

塔村俊介 議員

町長 何が正しいかを皆で議論、探求、判断していくこと



問 衆院選が公示され政治への関心が高まっている。町長の政治観について問う。政治とは何か。私は「みなさんの理想と現実をつなぐ架け橋であり、新たな未来を創造すること」だと考える。

答 私も塔村議員と全く同感である。政治とは、何がより正しいかを皆で議論し、探求し、判断していく営みではないかと。自由に議論できる事が前提である。

問 政治の責任とは何か。私はまず「生命、財産の安全・安心の責任を果たす事、そして無駄を廃除

し、未来に投資することを通じて、それを実現、説明、結果に対する責任」だと考える。

答 マックス・ヴェーバーの「職業としての政治」によると、議論するにしても、人間の理性には限界がある。しかし、あきらめる訳にはいかない。目指すべき方向を掲げながら何とか頑張っていく。そして出た責任は自分が一身に背負う。そういう覚悟を持つのが政治の責任と理解している。

問 政治の目的とは何か。私は「この地球と人類(奥出雲町)を未来永劫に存続させること、国民(町民)一人ひとりの幸福を実現すること」だと考える。

答 町の総合計画にうたってある潤いと活力に満ちた奥出雲、これがまさに目的である。

問 行政マンから転身されて3年半、民意と政治家の決断についての考えを問う。

答 自分が思うことを正直に、愚直に訴えをし、民意を問うこと。民意と全く合わなければ、潔く

民意が選択されるわけであり、政治の場から退場すればいい話だと思っている。

問 私は、町長が思った通りの決断をされたらそれで良いと思う。しかし、その前に賛成反対等全ての民意を受け止めて最終判断を行ってほしい。学校統廃合、ダビデ・ミロ像も賛否両論ある。誰のためのものか考えれば、おのずと結論が出る。

奥出雲町を将来どのようなまちにしたいのかを問う。

答 将来に渡って安心して住み続けられることを強固なものにしていきたい。安定した所得が保証され、少子化に歯止めをかけ、Uータウンの促進を目指して、みんなが笑顔で元気で生活できる地域をつくっていきたい。

そのための体力と気力があればという前提で立候補表明を行った。

問 この3年半で一番成果が出たものは何か。

答 新卒者の町内就職、Uータウンの定住促進である。定住奨励金の増額等により、276人の定住に結びついた。

問 この3年半での一番の課題は何か。

答 少子化対策、Uータウン者の定住対策、産業の振興であると思う。

※この3年半で一番充実したのは文化面だと思う。また、安定的な経営のため、三セク等に補助金をいれるということである。

逆に課題は、情報公開と情報発信である。ヴィラ船通山等への補助金や文化的事業に対して、なぜその金額となったのか、どんな効果があったのかは、私自身も議会も町民もわからない。

また、定住対策や働く場所の確保は具体的に数字には至っていない。人口も予想以上に急激に減っており、この5年で1千366人少なくなった。20年後には人口は1万人である。

家族一緒に暮らす、ご近所、友達の方と一緒に過ごす中で一番幸せを感じられると思う。

手腕を発揮されて、奥出雲が未来永劫と続く町民が幸せになれるまちづくりを行っていただきたいと願う。